

問題1

目標

- 一 文章を論理的に読むことができる力を養う。
- 二 主旨を掴み、正確な日本語で表現する力を養う。
- 三 文章の論点を理解し、それをもとに新たなテーマを考える力を養う。

■解答

- 問一 エ
 - 問二 岩田慶治氏 イバン族に 岩田慶治氏
 - 問三 ウ
 - 問四 近代合理主義と生きた自然環境とが相容れないものだったから。
- 別解 有機的な自然環境を、近代合理主義が無機的に扱ったから。

■解説

問一 論理的言語力「一文の構造」
一文であっても、文章は論理的にできている。一文の論理構造を掴まえたかどうかを試す問題。

「イバン族では」↓「ついたので」
「もともと」↓「ついたので」
「村中の人びとが」↓「集まって」↓「ついたので」
「白を」↓「ついたので」と、言葉のつながりを考える。

問二 論理的読解力B「段落分け」

第一段落は「有機的」の説明である。
第二段落では、岩田慶治氏の「コスモスの思想」を紹介している。岩田氏の考えを引用したのは、筆者と同じ考えだから。
そこで、筆者の主張と岩田氏の考えとの間には、「イコールの関係」が成立する。
イバン族の白を中心とした文化は、動力精米器を導入することで崩壊したのだ。
第三段落では、一転、私たちの「今」の話となる。近代合理主義が文化を変容させたのだ。合理主義によって確かに生産力は上がったが、その代わり生き物としての文化を壊していった。

第四段落では、私たちの文化の変容を、魚の比喻を使って説明する。文化が変容したのは、合理主義が生き物としての文化を無機物として扱ったからなのである

問三

論理的読解力A「趣旨の把握」

「筆者の主張」「具体例」「比喻」を見分けること。その中で、「筆者の主張」は何か。「有機的」の説明。イバン族の例。魚の比喻は、すべて合理主義が私たちの文化を変容させたことを説明するためのものであるに過ぎない。筆者の主張(A) 合理主義が私たちの文化を変容させた。
Ⅱイバン族の例(Ⅰ, A)
Ⅲ魚の比喻(Ⅱ, A)
といった「イコールの関係」を理解したかどうか。

測 定 する 能 力	
論理的言語力	論理的読解力A
論理的読解力B	論理的読解力B
論理的思考力	論理的読解力A
論理的表現力	論理的読解力B

問題2

目標

- 一 小説に主観を入れずに、客観的に分析する力を養う。
- 二 接続詞や副詞を正確に使う力を養う。
- 三 主人公の心情を、文中の根拠をもとに読み取れる力を養う。

■解答

- 問一 (1) それも (2) けれども (3) やはり (4) すると
- 問二 エ
- 問三 ウ イエオア
- 問四 ピアノが鳴った原因が分かったから。
- 問五 ウ

■解説

問一 論理的言語力「接続語」「副詞」
まず選択肢を、接続詞と副詞とに分けるべきである。

接続詞は文と文の論理的関係を示すもの。それに対して、副詞は用言(述語になるもの)との関係で決定する。

1 わたしはとうとう夜に入った後、やっとその人の家を辞することにした。
(1) 近近にもう一度面談を約した上のことだった。

「それも」は、指示語「それ」に助詞の「も」が加わったもので、接続詞的な役割を果たす。ここでは「それは、直前の「その人の家を辞することにした」を指している。直後の「もう一度面談を約した」その上で、「家を辞することにした」のだから、「それも」の「も」を使った。

2 空所直前では、わたしはピアノが鳴った原因をいろいろと推測している。それにもかかわらず、直後では「ピアノの鳴ったのは不思議だった。」とあるので、逆接。

3 「やはり」↓「変わらなかった」と、用言を修飾している副詞。予想していたとおり、この前と変わらなかったということ。

4 わたしが独り言を言った直後にピアノが鳴ったのだから、順接。

問二

論理的読解力A「微妙な心情を掴まえる」

文中の根拠を掴まえたかどうか。「あの崩れた壁のあたりに猫でも潜んでいたかも知れない。若し猫ではなかったとすれば、――わたしはまだその外にもいたちだのひきかえるだのを数へていた。」とあることから、エ「小動物がピアノの上に乗った」と推測し

問四

論理的表現力「筆者の考えから推測する」

まず筆者の考え方を掴まえること。
文化はあくまで文化について論じている。文化は生きものであり、それゆえ合理主義とは相容れないといったのが、筆者の主張。

環境は生き物である限り、有機的なあり方をしていくはずだということは、論理的に理解できるはずである。一つの環境には、人間だけではなく、動物、植物、さらには空気、水、養分、微生物など、様々な要素から環境全体を作り上げている。

次に、「近代合理主義」という語句を使ってという条件があるので、「近代合理主義」と「自然環境」との関係を掴まえる。

自然環境は有機的(生きもの)であるのに、合理主義はそれを無機物として扱った。例えば、魚の頭を切ったなら、その頭だけでなく、魚全体が死んでしまう。それと同じように、自然の一部分を破壊しただけなのに、環境全体が変容してしまったのが、環境問題の根本原因だったのである。このことは特別な知識がなくても、論理的に考えれば分かるはずである。

設問は「環境問題」の根本原因について。本文中「環境問題」については触れられていないが、「問題文の内容に即して」とあるので、「文化Ⅱ生きもの(有機的)」「合理主義Ⅱ(物として) 無機的に扱う」といった論理を「環境問題」に当てはめればよい。「自然環境」も文化と同じように生きものであり、それゆえ、合理主義によって解体されていったのである。

ていたと分かる。

問三 論理的読解力B「小説の中の論理を理解する」

時間的順序として、ある人を訪問した日か、五日後かで大きく分けることができる。ある人を訪問した日は、行きは雨が降っているので、ウ。

その帰り道は既に雨がやみ、月明かりが射していたので、イ。

五日後は日の光の下でピアノを見た。

ある人を訪問した行き道に、わたしは日の光の下であのときの神秘を失ったピアノに失望しているから、エ。

ところが、そのとき、ピアノがかすかな音を鳴らしたのだから、オ。

栗を発見することで、ピアノが鳴った原因が分かる。

帰り道、わたしはもう一度ピアノの様子を見に行く。ピアノの上を栗の木が斜めにおおっているのを見て、ピアノに目を注いだので、ア。

問四 論理的読解力A「小説のあらすじを理解する」

直後に「そこにはいつの間にか落ち栗が一つ転がっていた。」とあることが、根拠。

論理的読解力A「微妙な心情を掴まえる」

傍線部直後にp8・13行目「わたしは只藜のくピアノに。」とあることから、わたしの感動はピアノの音の原因が栗の木にあったことではなく、震災以来誰も聞くこととはないのに、密かに音を鳴らし続けていたピアノにあったことが分かる。

小説はどうしても主観を入れて読みがちである。いったんは主観を排除し、問題文を書いてあるがまま、客観的に読み取ることができたかどうかが大切である。

事実、名作は論理的に描かれている。

今回の「ピアノ」は、時刻や天候など、巧みに利用して、廃墟の中のピアノの神秘性や、それが光の下で色あせて見えたことなど、的確に表現されている。

そして、震災で多くの人が姿を消し、廃墟と化した家の中で、誰にも知られることなく音を鳴らし続けたピアノに、優しい目が注がれている。

客観的に読むということは、設問に必ず文中の根拠を探し出して答えるということ。「どう表現されていたか」を正確に読み取ってこそ、次にそれをどう評価したかという観賞が初めて成立するのである。

なお、問一の接続語や副詞の問題は、文と文、語句との論理的関係を正確に掴まえることができるかどうかである。

問題三

目標

- 一 論理的に物事を整理し、考える力を養う。
- 二 対立関係を読み取る力を養う。

■解答

問一 (1)イ (2)ア (3)イ (4)イ

問二 書き言葉は書かれた文字がすべてで、他の補助手段がないこと。

■解説

問一 論理的読解力A「文章を論理的に理解する」

「書き言葉」と「話し言葉」が、対立関係であることを掴まえる。

1 直後に「言葉が話し手の口から飛び出した瞬間」とあることから分かる。

2 直前に「書き言葉」とある。

3 直後に「話し方」とある。

4 直前の「そういう意味」は、「話し方が異なってくる。」を受けている。

問二 論理的思考力「説明問題」

「自己完結」とは、書き言葉は書き言葉(「自己」)だけで完結するということ。話し言葉が、「声の大きさ、質、さらには表情や仕草など、様々な補助的要素が加わってくる。」ことから、その反対だと分かる。

「対立関係」を読み取ったかどうかの問題。

問題四

目標

- 一 文章の要点を掴まえる力を養う。
- 二 自分の考えを論理的に説明できる力を養う。
- 三 正確で、筋の通った文を書く力を養う。

■解答

問一 安定したエネルギー供給が必要だから。

(今の豊かな暮らしを維持したいから。)

代替エネルギーは現実的でないから。

(「計画停電」などは具体例だから×)

問二

命の問題を最優先すべきだから。

(私たちの子孫にまで影響を及ぼすから。)

代替エネルギーの開発をすればいいから。

たとえ多少の原発事故の危険性があっても、今の便利で豊かな暮らしを維持する方が大切だから。

別解

代替エネルギーに変えることは、開発コストがかかったり環境を破壊したりと、現実的とは言えないから。

問四

代替エネルギーが様々な問題を抱えていたとしても、科学技術を発展させることで解決が可能だから。

別解

たとえどんなに豊かで便利な暮らしでも、命が危険にさらされたとしたなら、何にもならないから。

■解説

問一 論理的読解力A「要点を掴まえる」

意見Aは、「原子力発電を停止せよという意見には賛成できません」とあり、その理由として、今の文化的な生活を維持したい・今の生活を変えることができないとしている。計画停電などは、その具体例だから×。

さらに、後半では代替エネルギーの話題です。代替エネルギーは現実的でないとしている。

文章の要点と、具体的説明部分を見分けることができたかがポイント。

問二 論理的読解力A「要点を掴まえる」

意見Bは、原発反対の理由として、まず「命」の問題を挙げている。「命」の問題は何よりも最優先すべきだとしている。さらに、後半は代替エネルギーの可能性について述べている。

問三・四 論理的表現力「筆者の考えをもとに新たな問題について推測する」

まず対立関係を掴まえること。対立点は二点。

①今の文化的生活を優先させるのか、多少の不便があっても「命」の問題を優先させるのか。

②代替エネルギーを現実的でないとするのか、あくまで科学技術を発展させることで代替エネルギーを推進するのか。

(問三・四とも、あくまでダイベート力を試すものなので、自分の意見を入れるのではなく、それぞれ意見A・Bを根拠に、相手のそれぞれの理由に対して反論を試みることに。原則として、反論できていれば、○となる。後は、日本語として、筋道を立てた文章が書けたかどうか)

本検定の目的はあくまで論理力の有無を判定することにある。それゆえ、受検者がどんな意見を持とうと、ここでは一切採点対象とはならない。

あくまで、指定された条件の下、自分の意見を論証できたかどうか、正確で筋の通った文章を書くことができたかどうか、採点対象である。

以上